

The new Oasisism

オアシスを求めて人と都市は結ばれる

DIPROMA PROJECT

Mie-university
Department of architecture
400718, Shiga/To Sakamoto

卒業設計2003 坂本紳二郎

the new Oasisism

人と都市を結ぶものは公共空間であり、それは人や都市にとってオアシスとなるべきである、それが新たなオアシスの定義となる。

PROJECT

East-west section and avenue elevation 1:1000

O A S I S M 1

Concept 1

project of land form and oasisism

グリット状に走る道路や都市軸となる大通りは都市をグリット状に分断し、各区画や大通りは孤立した。そしてランドスケープや、東西・地上地下における人の流れも分断された。これらの周囲との新たな関係性を見つめ直し、連絡していくために地上と地下の公共空間を活用しながら大通りの地形を再計画していく。

the new direction of oasis

Site plan

地上・地下の公共空間

Divided city

東西の分断
地上地下の分断

Flow line

グリーンベルトの流れ
人の動線・滞留

Land form

地上地下を結ぶスロープ
地下に入組むグリーンベルト

地上広域図 1:5000

地下街配置図 1:2500

大通り立面
木々によって反対側の景観は全く見えず東西の視界は分断された感じになる。

地下街
地上と視線・動線が切り離され、この地下のレイヤーは独立している。

オアシス21

名古屋再開発部

地下街

もちの木広場

大塚大通り

オアシス21地下広場

木々とともに人は地下に降りていく

もちの木広場のゾイドを拡大しスロープを地下に落とす

present step1 step2

緑のレイヤーが重なり、地形とともに地下へと流れ込む

present step1 step2

広場に辿り着き地下空間に新たな留り場（公共空間）ができる

South-North Section and Avenue Elevation 1:1000

O A S I S M 2

「The new Oasisism」 400718 坂本紳二郎


Concept 2

Relation between a city and people

近年オアシス21の出現により人々はその集い、そこは日常的な憩いの場となった。都市は人々にオアシスを提供するが、しかし逆に人々は様々な都市の問題を解決しようという取り組みは行われていない。人々が都市環境を改善し、都市にオアシスを選元するべきである。つまり「本来のオアシス」とは人々にとって、そして都市にとってのオアシスとなるべきである。


the new direction of oasis

CITY



環境

OASIS



保つ
改善

PEOPLE



提供
向合う

What's oasis?

- 人々にとってのオアシス
- 都市にとってのオアシス
- 新たな都市のオアシスの役割

Site form

- 教育館の改築
- 都市環境の研究施設

city void

- 都市の軸構成
- 高密度の都市空間
- 新たな都市のランドスケープ

Stream in city

- 地上と地下レイヤー
- 人、空間の流れ
- 地上と地下が交わる空間

今回はオアシス21と反対側の教育館がある区画を取り出して計画していく。

計画施設、用途：研究施設（大学）
区画面積：6280㎡、建築延べ床面積：約36424㎡
容積：約580%

この計画区画にある名古屋教育館は10年後に改築の家が出されているが、未だにその方針はままとっていない。今回の計画はこの教育館の改築の際はこの区画を利用する。人々が日常的に都市環境問題を学び取る研究機関として大学を計画する。そして、企業や名古屋の各大学との連携により市民の環境に対する知識と意識が高まる。

東側のオアシス21と、ヴォリュームや視線・動線の関係は無い。また、都市軸である大通の空間構成として東西対称でままりが無い。そのため、空間の力が強い。

区画内の形状やテクスチャを操作することにより、大通りを中心としてヴォイドが生まれ都市軸を強調する。また、新たな視線（ランドスケープ）が生まれ東西の新たな方向性をつくる。

地上と地下のレイヤーに人の流れや活動が生まれる。このレイヤーを重ね合わせ、新たな都市の立体的なレイヤーを計画する。また、研究施設を地上の東西軸として地下とを結ぶアクセスに取り込めることによって、それは都市環境というものが人々にとってより身近なものとなる。


分断された地上と地下を結んでいき、そして人々が都市環境というものを都市スケールで視覚的に感じることに伴ってオアシス21と合わせて新たな都市のシンボルとなる。

重ね合わせて計画

Diagram

Green panel and louver / 緑化パネル・ルーバー

green panel

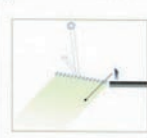


Punching metal panel / パンチングメタルパネル

ハンチングメタルの網板にツタを跡まき、そして植物が根付く形式で壁面に張り付け緑化をした。

再植はまだまだツタが育ち、再からの成長を促す。緑化パネルと網板の間にツタのダブルスピンとなっているため太陽光の熱負荷を低くし、室内を軽く保ち出す。

green louver



Detail section of louver 1:30 / ルーバー詳細断面(南北)

角部のついたらルーバーは地下2階のストリートを覆っており、そしてルーバーと梁の接合部の直下には土壌を詰めツタを生育している。このツタはハンチングのルーバーに絡み、緑化ルーバーを形成している。

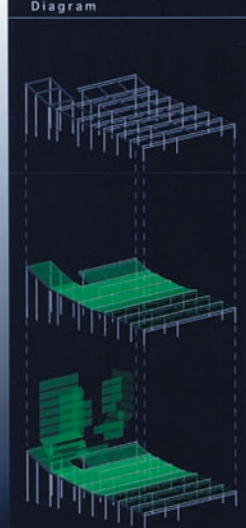
また、ルーバーは南北方向に100mm-120mmごとに東西方向の梁の上に張り付けられている。


Detail section of louver (A-A) 1:30 / ルーバー詳細断面(東西)

ルーバーは東西方向に50cmスパンで取り付けられている

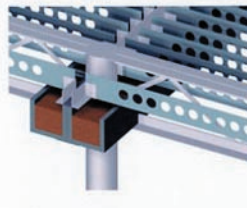
地下の大空間を作り上げるルーバーの梁は南北方向に21mm-36mスパンの方向トラス梁が支え、これが東西方向に2mスパンで張られている。

Diagram







Front View / 前面



Junction part / 接合部



From a top / 上方から



From the bottom / 下方から

「The new Oasisism」 400718 坂本紳二郎

Formation of structure

	step1	step2	step3	step4
green layer / 緑のレイヤー				
wind layer / 風のレイヤー				
overlap / 重複				
volum / ヴォリューム				
edge / エッジ				

種やかなスロープから垂直方向に立ち上がり、一連の流れを表現

片淵を切り取り、性質も2つに分けることによりもう1つの流れをつくる

片淵を短くし、そして断面からもう1枚取り付けることにより、立体感を出す

西と側面からもう1枚取り付けることにより、立体感を出す

緑化のレベルとレベルにより形成された緑のレイヤー

この2つのアトリウムの中に入り込む風が緑のレイヤーが入り込む

North elevation South elevation West elevation East elevation Diagram

OASISM 5

この広場は計画敷地とオアシス21そして地下の公共空間を結び、都市スケールから見て、地下と地上空間を結ぶ中心的な空間となる。

公共空間・通路
地下居室・店舗

大通りとオアシス21そして計画敷地の緑化が連続した空間のヴォリュームの一体感からも視覚的に地上においても連続間が生まれた。

南北の都市軸のグリーンベルトを壊さず、東西の新たな方向性が生まれた。

高文センター

Site Plan on the ground 1:1000 / 地上配置図 Site Plan underground 1:1000 / 地下配置図

stay flow

地上と地下を結ぶこの地下通路ではこれまで地下空間を圧迫してきた地上の地盤は取り払われ、空からの光が緑化ルーバーを透過し降り注ぐ。地下において地上の要素を取り入れることによって地上と地下の空間は一体化する。

通り沿いに地上・B3に続く動線や、ショップ・ギャラリー・ワークスペース等の公共スペースが並んでいる。

既存の地下街から地下通路に向かうスペースにギャラリーを設ける。日常的な地下動線の中に取り込むことによって都市環境というものがある身近なものとなる。

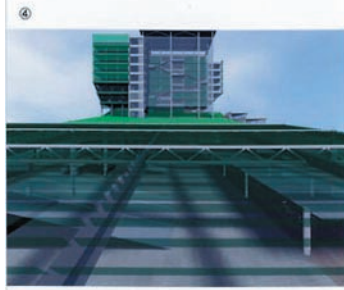
大通りに開けたヴォイドに地上にあった木々が立ち並ぶ。ここでは地上と地下を人々が行き交い、そして広場周囲を囲むライブラリーコーナーから出て本を読んだり、休憩等をしたたり新たな地下空間の潜在形態が生まれた。

① Underground street / 地下の通路 ② Underground gallery / 地下ギャラリー ③ Underground square / 地下広場

OASISM 6

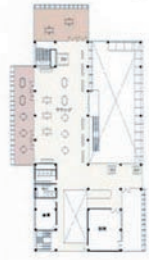
「The new Oasisism」 400718 坂本紳二郎

Flow of green and people



▲ 東側の歩道から地下を見下ろすと、角度のついた緑化ルーバーの間隙から地下通路の様子が見える。また、歩道を歩く人の足下から西側の上空まで延びていき、緑のレイヤーの流れを表している。

Scene from east sidewalk / 東歩道から



▲ 最上層はラウンジとなり、そこから東のオアシス広場まで続く緑の景観を一望することが出来る。

11F plan +40000



▲ 研究室の壁の緑化パネルから見る緑の景観は、自然光から風が入る。

7F plan +24000



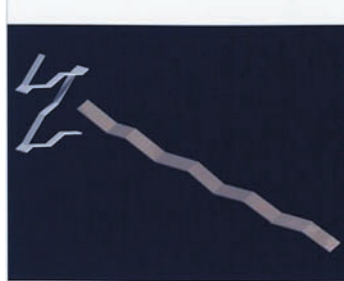
▲ コラボレーションスペースにおいて大学と企業等との共同研究が行われる。

5F plan +16000



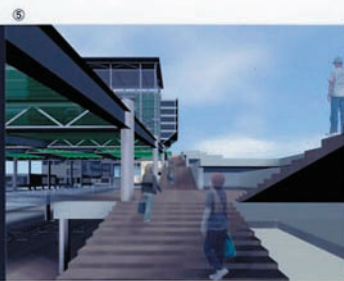
▲ 研究室のプライベートな研究室とそうでない空間に別れ、アトリウムに集ったコラボレーションスペース内を自由にオフィス空間をレイアウトする。

4F plan +12000



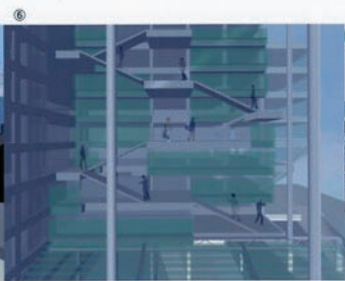
▲ 敷地北側のルーバーから外れた階段群は地下から地上を抜けてさらに上空へと伸びていく。この階段群は人の流れを表しており、地上からはこの一連の流れが見える。地下室から4階まで広がる階段群と4階から11階までのアトリウム内を走る階段群がある。

Line of flow / 動線



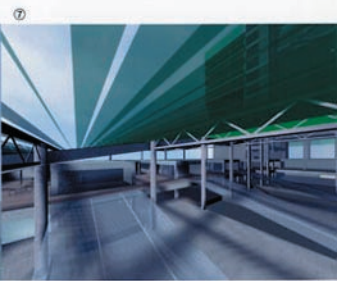
▲ この動線に沿って移動する人々の姿が地下から地上に表れている。この動線からは地下通路の空間の様子を見ることが出来る。また各階には緑化壁が見える。この通路を自由に走り出している人々の姿からは敷地が東のオアシス広場まで景観が開き、都市の新たなランドスケープが作り上げられている。

Scene looked up at underground / 地下から見上げる



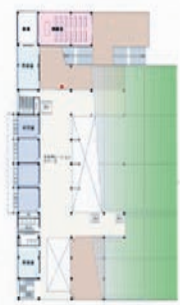
▲ 4階から建物に入り、アトリウム内の階段とエレベーターで移動する人々の姿が最上層まで動き、そして最上層からのラウンジからは東西の連続性を眺めるも広縁の新たな景観が広がっている。

Flow in on atrium / アトリウム内の動線

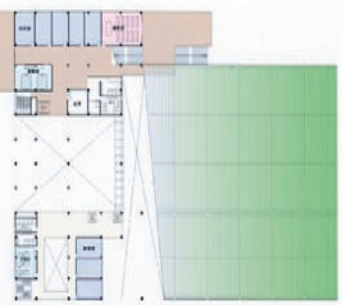


▲ 階段を上ると地下の吹き抜け空間が見えてくる。地下通路に斜めに張り出しているガラス屋根の下には緑のメッシュパネルの様子が見え、屋根の上には遊歩人が自由にオフィス空間をレイアウトしている。

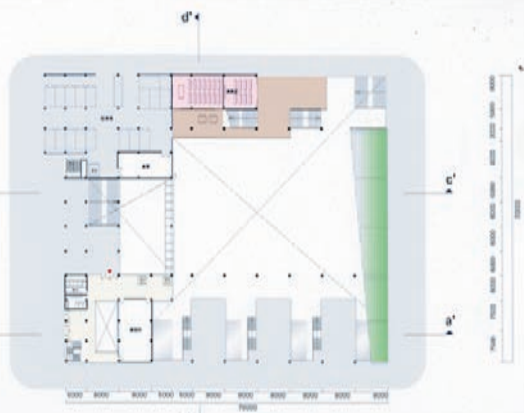
Underground seen from stairs / 階段から見た地下



3F plan +8000



2F plan +4000



1F plan ±0

▲ 区域の東・南・西面から建物内へ入ることが出来る。同時に、歩道からは地下の吹き抜け空間をルーバーの間隙から見えてくる。



B1 plan -3300



B2 plan -6750



B3 plan -11710

▲ 最上層の研究室等の中間階にあり、南側は、研究室の研究室が並んでいる。南側から降りてきた人は11階の研究室に移動し、そして歩道から地上へと出る。

▲ 地下駐車場のレイアウトは、最上層の研究室となるこのフロアでは車を中心として、バイク、自転車、スクーター、ワーキングスペースのレイアウトがなされている。

▲ 南側から降りるビルディングの中心にあり、1階から降りてくる人、ビルディングの中心に入りはじめられる。

「The new Oasisism」 400718 坂本紳二郎

